

「Check & Action 振り返りシート」

1. チームが所轄する授業科目名と担当教員名

授業科目名	担当教員名
データサイエンス概論	阿部真育、末本哲雄、大高洸輝
データ科学と社会 I	吉永敦征、大高洸輝、畔津忠博、末本哲雄、藤田采花
データ科学と社会 II	長谷和久、栗原俊之、宇田新介、末本哲雄、藤田采花、吉永敦征、大高洸輝、畔津忠博
コンピュータ・リテラシー	吉永敦征
データサイエンス演習	阿部真育、畔津忠博、内野英治(非常勤)、末竹規哲(非常勤)、末本哲雄、藤田采花

2. 学位授与方針における各授業科目の位置付け

旧カリと新カリと DP の位置づけが異なりますので、記入する際に注意してください。

学科 旧カリキュラム DP

<p>学科 新カリキュラム DP</p> <p>新 DP1-1【知識】地域社会の諸課題や人々の健康問題について理解し、説明することができる。</p> <p>新 DP1-2【技能（言語）】基礎的な言語運用能力を身に付けている。</p> <p>新 DP1-3【技能（DS）】基礎的な数理・データサイエンスの能力を身に付けている。</p> <p>新 DP2-1【思考力】社会の課題について解決するための批判的思考力を身に付けている。</p> <p>新 DP2-2【判断力】社会の様々な対立する価値や相反する課題を発見し、評価することができる。</p> <p>新 DP2-3【表現力】自己の主張について、根拠に基づいて、論理的に分かりやすく伝えることができる。</p> <p>新 DP3-1【主体性】自ら考え主体的に行動して、責任を持って行動しようとする意欲や態度を身に付けている。</p> <p>新 DP3-2【多様性】不確実な社会に対しての柔軟な対応力を発揮することができる。</p> <p>新 DP3-3【協働性】異なる文化や考えを持つ人々とともに、多様な経験を積み重ねることができる。</p>
--

授業科目名	対応する学位授与方針	授業科目で育成する能力
データサイエンス概論	新 DP1-1【知識】 20% 新 DP1-3【技能（DS）】 40% 新 DP2-1【思考力】 20% 新 DP2-2【判断力】 20%	本講義では、現代社会がデータを中心に据えて活用するようになった事実を踏まえ、情報技術が社会に引き起こした変化についての知識を獲得することを目的とする。なかでも AI は、私たちの社会に大きな変化をもたらす技術であるため、AI 技術の歴史を振り返りつつ、AI の活用によって変化した社会の仕組み、規範性などを学習し、society5.0 に向けた AI 技術活用の将来を考察する。さらに、AI を活用するために必須となるデータが持つ性質や、データの取り扱いの規範、データのセキュリティについて理解する。本授業は講義形式で実施し、知識の習得と、獲得した知識を元にして社会を評価する判断力を育成する。
データ科学と社会 I	新 DP1-1【知識】 20% 新 DP1-3【技能（DS）】 40% 新 DP2-1【思考力】 20%	現在、AI をはじめとする技術が急速に発展し、社会のあらゆる分野で新たな価値が見いだされている。この授業ではこれらの技術を支えるデータサイエンスを学ぶ意義を知るとともに、そ

	新 DP2-2 【判断力】 20%	の基礎となるデータリテラシー（データを的確に理解し、解釈し、分析する能力）を身に付けることを目標とする。
データ科学と社会Ⅱ	新 DP1-1 【知識】 20% 新 DP1-3 【技能 (DS)】 40% 新 DP2-1 【思考力】 20% 新 DP2-2 【判断力】 20%	データ・AI の利活用のために必須の留意事項（情報セキュリティ、倫理、法規）について解説する。また、データ科学と社会Ⅰの内容を踏まえて、データ・AI 利活用のための技術とその最新動向について説明する。業務や研究におけるデータサイエンスの活用事例を紹介する。講義は、講義形式（動画の視聴を含む）を主として実施する。
コンピュータ・リテラシー	新 DP1-3 【技能 (DS)】 60% 新 DP2-1 【思考力】 20% 新 DP2-2 【判断力】 20%	本演習では、大学での学習を円滑に進めるために、コンピュータを活用する技術を身に付けることを目的とする。コンピュータは大学での学習において必要とされており、その活用能力の習得が重要である。コンピュータ内のファイルの取り扱い方から、レポートの作成、文献情報の取り扱い、統計的なデータ処理、課題の成果のプレゼンテーションなどを円滑に行なうことが求められる。そのため、コンピュータやソフトウェアの操作方法、具体的にはワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、図形描画ソフトの使い方について、実技指導を含めた演習を通じて学習し、コンピュータを用いる適切な場面を判断できる知識を身に付ける。
データサイエンス演習	新 DP1-3 【技能 (DS)】 60% 新 DP2-1 【思考力】 20% 新 DP2-2 【判断力】 20%	本演習では、データを取り扱うための基礎的な知識・技能を習得することを目的とする。医学・保健科学だけでなく人文・社会科学においてもデータが持つ性質を理解し、適切な方法でデータの分析を行う視点は重要であるため、データ分析を行なうための基礎的な数理・データサイエンスの技能を身に付けることを目指す。実際にさまざまな領域でデータ分析が行なわれていることを知るために、人文・社会科学や保健科学、公衆衛生、環境科学などの具体的な統計データを使用し、各領域に共通するデータの処理方法、検定方法、分析方法を学習する。また、領域横断的な課題に対して、効果的なデータ分析手法を判断し応用する力を身に付けるために、多様かつ新たなデータの取り扱いについて実技指導を含めた演習を行う。

3. 2025年度の重点取組課題の実施及び達成状況

重点取組課題	取組及び達成状況
新科目の円滑な実施	データ科学と社会Ⅰとデータ科学と社会Ⅱは今年度から始まった科目である。データ科学と社会Ⅰは前半を講義、後半は演習という構成で1年生に基本的な内容を理解してもらい、山口大学の連携開設科目のデータ科学と社会Ⅱに繋がるようにした。

4. 各種データの基づく課題分析

課題の抽出	課題の原因分析
-------	---------

【データサイエンス概論】	大部屋での授業のため、教卓までは聞こえてこなかったが、後ろの方の席では私語が多いとの指摘があった。この点に関しては、学生が授業に集中しているか否かを都度確認するようにしながら授業を進めたい。授業内容に関しては、座学だけでなく簡単な演習やゲストスピーカーの講義などを組み込んでおり、特にゲストスピーカーは一般的なデータサイエンスのイメージとは異なる業種の方にも講義していただいている。その効果が授業評価における、授業内演習やゲストスピーカー回での高評価として可視化できている。ただ、県内にそのような講義が出来る方がいないため、多くのゲストスピーカーは会社経費や私費にて県外から来ていただいております。学生の修学意欲の増進や学習効果の向上のための授業関連経費の拡充とゲストスピーカー謝金の増加は必須かと思われる。
【データ科学と社会Ⅰ】	授業評価では、「総合的に判断して、この授業に満足できましたか？」においては比較的高評価が多かったが、「教員と学生、あるいは学生同士の意見交換は十分に行われましたか？」では、低い評価も散見され、さらに丁寧に授業を行う必要があることを示している。
【データ科学と社会Ⅱ】	本科目は連携開設科目の一つであり、山口大学の教員が授業を担当した。動画内容の補足説明を担当教員が丁寧に実施した場合、あるいは、受講生同士で話し合いや交流する機会（グループ活動）が設けられた場合、受講者の満足度は高くなる傾向にあった。
【コンピュータ・リテラシー】	再履修者向けに開講している科目のため、履修者のモチベーションを高める必要がある。授業の時間帯なども見直しを行う予定である。
【データサイエンス演習】	授業評価では、昨年度までと比して、全ての設問に対して『とてもそう思う』『ややそう思う』の回答件数が大幅に増えているため、全体傾向としては今年度の教育の方向性で問題ないが、クラスによってはネガティブな自由記述があったため、次年度以降も引き続き様子を見ることとする。

5. 重点取組課題と教育改善策

それぞれの科目を連携させてカリキュラムを構成しているため、今後は担当者間でさらに連携を深めて授業内容を更新していきたい。